

2011年度海外研修旅行の報告

松浦克至・藤田英樹・林 文明・木下 茂・鈴木泰成

1. はじめに

本学では、キャリア科目として2009年度から海外研修Ⅰを開講している。内容は学生の人材育成を兼ねたもので、毎年夏季休暇中に希望者を募り海外への研修旅行を実施している。研修旅行先の多くは、2000年より本学提携校となったイタリア国立フェラーリ工業専門学校（IPSIA A'Ferrari）が所在するイタリアに行っており、イタリアへの海外研修旅行は今年で11回を数える。本年はイタリアを訪問した。

本稿では、2011年に行われた海外研修旅行について報告する。

2. 研修旅程

海外研修旅行については、提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校への訪問及びイタリアの自動車産業の見学を中心とした研修を主に検討した。

研修旅行の日程は、2011年8月27日（土）～9月4日（日）の6泊9日に決定するまでにはいくつかの紆余曲折があった。海外研修・留学委員会からの要望と提携校及び旅行会社との交渉は容易ではなかった。例年、研修の中心となっていたフェラーリ社の工場見学は実施が確定ではないことから、募集時点では不確定要素を除いた形で募集を進めることとした。

この状況でも研修内容の充実を検討し、今年度はローマとヴァチカンを訪問することとした。その研修内容は表1に示すように、イタリア国立フェラーリ工業専門学校の訪問、フェラーリ博物館、ランボルギーニ博物館、パガーニ・ゾンダ博物館の見学、フェラーリ専門のカロッツェリア（整備工場）の見学、また異国文化に関わる研修では、ローマ、ヴァチカン、ヴェネチアを巡る充実した研修旅程にまとまった。

3. 参加募集

海外研修旅行の参加募集人数は20名とした。研修旅行に対する保護者の理解を得るために、2月下旬に新入生及び新2年生の保護者宛に案内を郵送した。3月下旬には募集用案内のカラーポスターを作成し、各教室及び掲示板、主要建物に掲示し、受付・相談窓口も告知した。

4月4日の入学式後には、新入生の保護者にむけて参加募集案内を行い、仮申し込み4名を得

表1 海外研修旅行実施旅程

	月 日	都市名	交通機関	時間	スケジュール	食事
①	08月27日 (土)	セントレア 発 香港空港 着	CX531便	17:05 21:50	空路：中部国際空港から香港 【機中泊】	夕✈
②	08月28日 (日)	香港空港 発 ローマ空港 着 ローマ空港 発 ローマ市内 着	CX233便 専用車	0:05 7:15 8:00 15:00	空路：香港経由ローマ・フィウミチーノ空港へ 到着後、専用車でローマの観光へ トレビの泉 など ホテル到着 【ローマ泊】	朝✈ 昼△ タ△
③	08月29日 (月)				ホテルで朝食後 終日フリータイム ローマオープンツアー（乗降り自由）を利用してローマ市内とヴァティカン美術館見学 【ローマ泊】	朝○ 昼× タ×
④	08月30日 (火)	テルミナ駅 発 ヴェネチア 着	列車 ESAV9404	8:45 12:33 14:00 17:30	ホテルで朝食後 徒歩で駅へ 列車でローマからヴェネチアへ ヴェネチア到着 到着後 ボートでホテルへ 徒歩で本島内観光へ（約3時間） ゴンドラ遊覧 【ヴェネツィア泊】	朝○ 昼△ タ×
⑤	08月31日 (水)	ヴェネチア 発 モデナ 着	列車 9419/9822 専用車	午前 14:00 15:27 17:39	ホテルで朝食後 午前フリータイム （チェックアウトは11時） ホテルからボートで駅へ ヴェネチアから列車でモデナへ 途中 ボローニャ乗換 モデナ駅から専用車でホテルへ（6km） 【マラネロ泊】	朝○ 昼△ タ△
⑥	09月01日 (木)	モデナ・マラネロ			ホテルで朝食後 トニーオート、フェラーリ工場、 ランボルギーニ工場、博物館 バガーニ社 【マラネロ泊】	朝○ 昼△ タ△
⑦	09月02日 (金)	モデナ・マラネロ モデナ 発 ミラノ 着	列車 ESVA9820	16:40 18:25	ホテルで朝食後 フェラーリ博物館、ザナシー 列車でモデナ駅からミラノ中央駅へ ミラノ中央駅到着後 徒歩でホテルへ ドゥオモ周辺散策後 夕食 【ミラノ泊】	朝○ 昼△ タ△
⑧	09月03日 (土)	ミラノ 発	CX234便	13:25	ホテルで朝食後 空港へ マルペンサ空港到着 空路：香港経由で帰国の途へ 【機中泊】	朝○ 昼✈ 夕✈
⑨	09月04日 (日)	香港 着 香港 発 セントレア 着	CX530便	7:00 9:10 15:40	空路：台北経由で中部国際空港へ 中部国際空港到着	朝✈

た。5月16日には情報センターの担当者に学校HPへの海外研修旅行の募集案内の掲載を依頼し、教授会においても教員に協力を依頼した。4月25日に第1回説明会を実施し、5月下旬にかけて計6回の説明会を開催した。また、4月下旬にはイタリア語の授業履修者に対しての説明も行い、6月5日の教育懇談会においても保護者を対象に研修旅行の説明を行った。

参加者の確定をしなければならない時期に入ったが、参加者数は伸びず6月16日の時点において4名であり、ホームページでの告知や教授会で各担任へ更なる学生への参加促進をお願いした。この状況では予定していた募集人数に届かず催行が危ぶまれる状況になると考え委員会を開催し、当初予定した人数に届かない場合でも催行する決定をした。

その後も各委員が仮申込者や関心のある学生を再度個別に回り、説明をして正式申込みの案内をした。その結果、最終参加者は自動車工学科1年生4名、2年生1名の合計5名となり、その後、参加予定者を対象に説明会を7月14、21、28日に行った。また、保護者にも最終確認のため研修旅行ガイドブックと出発案内を旅行社経由で研修旅行開始の約10日前に発送した。

今回は参加希望者のうちの1人が中国国籍でイタリア入国に際してシェンゲンビザを取得する必要があり、取得できるかどうかが不確定なため最終的な人数の確定が難航した。本人の参加の意思が強く、ビザの取得に係る費用負担や手続きを全て自分で行うこと、万一ビザが取得できなかった場合にキャンセル料等の費用が発生しても構わないということを了承した上で参加申込を受けることとした。8月8日に本人が在大阪イタリア総領事館に出向き、ビザの申請を行い、1週間程でビザの発給を受け、正式に参加できることとなった。

4. 研修旅行風景

8月27日：第1日目

午後3時00分に中部国際空港に集合し結団式を行った後、中部国際空港から乗り換え地の香港へ向けて午後5時05分（日本時間）にキャセイパシフィック（以下CX）531便で出発した。CX531便は台北を経由し香港・香港国際機場に午後9時50分（香港時間）に到着し、午前0時05分（香港時間）出発のCX233便ローマ行きに乗り継ぎを行った。広大な香港国際空港では空港内を電車で移動してローマ行きの便に乗り継いだ。支障なく乗り継ぐことができた。

8月28日：第2日目

香港を出発し、十数時間のフライトを経てローマ・フィウミチーノ空港（Aeroporto di Fiumicino）に到着したのは午前7時15分（イタリア時間）であった。空港到着後専用車にてテルミニ駅近くのホテルへ向かう。ホテルへの道中、車窓からローマ市内を眺めた。チェックイン時間前ということで部屋に荷物を置く事ができなかった。フロントに荷物を預けてローマ観光を行った。ローマ市内の主要観光地を循環する2階建てバス（写真1）の2日券を利用して、コロッセオ（写真2）、真実の口、スペイン広場、トレビの泉といった代表的な観光地を1日で



写真 1



写真 2

効率良く回ることができた。

8月29日：第3日目

ツアーに参加し、ヴァティカンへ。まずはヴァティカン博物館に入場した。学生は日本人ガイドからの説明に熱心に耳を傾けて、壮大な天井画（写真3）やモザイク画の説明に聞き入っていた。その後はシスティーナ礼拝堂を見学した。ここはミケランジェロが描いた創世記などの大天井画、最後の審判の壁画で有名であり、教皇を選出するコンクラーヴェの会場としても知られている。観光客等が吐く息の湿気などによるカビによる壁画の劣化を防ぐ為に、礼拝堂内部での私語が禁じられており、物々しい雰囲気の中で「最後の審判」の壁画を堪能した。長年の蠟燭の煤や湿気によるカビなどによる天井画や壁画の劣化が進んでいたが、日本テレビの支援によって1982年から1994年までに修復作業が行われ、天井画・壁画は洗浄され、製作当時の鮮やかな色彩が蘇ったということであり、意外なところで日本とヴァティカンとの深いつながりを発見することができた。

ガイドがつくのはここまでの予定であったが、ガイドの計らいで隣接するサン・ピエトロ大聖堂の見学もガイドしてもらえることとなり、カトリックの総本山であるサン・ピエトロ大聖堂の素晴らしいモザイク画や装飾を説明つきで堪能する事ができ、充実したヴァティカン観光となった。

ヴァティカン博物館中庭のオブジェの前での集合写真を写真4に、サン・ピエトロ広場を写真5に示す。

午後は各自でショッピングに出かけた。スペイン広場から伸びるコンドッティ通り界隈は有名ブランドショップが軒を並べ、各国からの観光客でごった返していた。イタリア名物のジェラートを食べたり、ブランドショップでウィンドーショッピングを楽しんだり、家族へのお土産を探したりと思いつきに夕方までフリータイムを過ごした。全員無事に夜の集合時間にホテルに戻っ



写真 3



写真 4



写真 5

Destination	REG	Time
MILANO C. LE	REG	8:22 4
FUMICINO A.	REG	8:22 29
CASSINO	REG	8:25 20
NAPOLI C. LE	REG	8:27 11
TORINO P. N.	REG	8:33 5
ALBANO LAZ.	REG	8:37
CIVITAVECC.	REG	8:39 26
FRASCATI	REG	8:42
FIRENZE SMN	REG	8:43
VENEZIA S. L	REG	8:45
LECCE	REG	8:45
SESSA AURUN.	REG	8:49
FUMICINO A.	REG	8:52
MILANO C. LE	REG	9:00
NAPOLI C. LE	REG	9:00
VELLETRI	REG	9:00 22

Informazioni supplementari
REGIONALI DA E PER FI-AN-PG NON FERMANO A TIBURTIN

写真 6

て次の日の移動に備えて早めに就寝した。

8月30日：第4日目

イタリア国内の移動は鉄道を利用するので、この日はテルミニ駅よりヴェネチア・サンタ・ルチア駅までユーロスターに乗車した。今回鉄道での移動のためユーレイルパスを事前に旅行会社を通じて購入して利用したが、事前に利用に際しての注意がなくトラブルが発生した。ユーレイルパスを使用する際には列車に乗車する前に駅などでチケットに日付印を押してもらい、チケットを有効化する必要があったのだが、それを知らなかったために列車内での検札の際に罰金を取られた。テルミニ駅の列車出発案内を写真6に駅構内での様子を写真7に示す。

出発時に若干の遅れが発生したが、ほぼ定刻どおりにヴェネチア・サンタ・ルチア駅に到着した。縦横に運河が張り巡らされた古い街であるヴェネチア市内は車での移動はできないため、ここサンタ・ルチア駅からは水上バスや小型の船での移動となる。駅からホテルまでは水上タクシーでの移動となった。(写真8)



写真 7



写真 8



写真 9



写真 10

ホテルにチェックインした後、すぐに市内観光ツアーへと出発した。(写真9) サン・マルコ広場やサン・マルコ寺院、ドゥカーレ宮殿、ヴェネチアガラス工房を見学した後、ゴンドラに乗船しての運河遊覧ツアー(写真10)に参加してヴェネチア市内観光を満喫した。

8月31日：第6日目

この日は午後からマラネロへの移動だったため、午前中はヴェネチア市内の自由散策とした。各自お土産屋でヴェネチアングラスやワイン等のお土産を購入したり、パールで昼食を摂ったりして移動までの時間を過ごした。

午後はサンタ・ルチア駅まで水上タクシーまで戻り、ユーロスターに乗車した。マラネロに行くために下車するモデナまで直接電車で行く事ができないため、途中のボローニャで乗り換える必要があった。乗り換えの時間は十分にあったが、乗り継ぐ電車の発着するホームが発車時刻直前になって突然変更になったため大慌てで重い荷物を抱えてホームを移動することとなったが無事に乗り継ぐ事ができた。

モデナ到着後マラネロに移動してホテルにチェックインし、イタリア国立フェラーリ工業専門学校・エミリア氏と昨年同校より本学へ短期留学で来日した学生と食事をして歓談をした。

9月1日：第7日目

午前中はフェラーリのエンジン専門整備工場であるトニー・オート (Toni Auto) を見学 (写真11) 後、フェラーリ本社工場の見学を行った。まず工場入口のロビーでガイドの説明を受けた後 (写真12)、小型バスに乗り工場内を移動し、組立工場の内部をガイドの引率で見学した。そこは工場のイメージとはかけ離れた、ガラス張りの日光をふんだんに取り入れた斬新な建物で、内部はオートメーション化された近代的な設備で振動や騒音もなくクリーンな環境であった。工場内部にも緑が植えてあり、作業へのストレス軽減やクリーン意識への動機付けを推進していることがうかがえた。社長のアイデアで工場内にもフェラーリのギャラリーが設けられていた。ガイドの方は『フェラーリ社で働くみなさんはこんなにすばらしい、世界に誇ることでできる自動車を作っているのです』と社員への意識高揚も考えられていると説明された。組立工場も非常に近代的で、ロボットを使ってシャシと車体を組み立てる工程などに学生は興味を持ってガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。

午後からはランボルギーニ博物館 (写真13, 14) を見学の予定であったが、急遽工場内の見学許可がおりたので、博物館と併せて組立工場内の見学を行った。ボディは全てカーボンセラミック製で、ドイツなどで生産してからここボローニャの工場に集約して組立を行っている。今回は本年度より生産を開始した新モデルの『アベンタドール』の組立ラインを見ることができ、そのデザイン性の高さに学生も惹かれていた。またシートのカバーの縫製の工程も見学することができた。一台一台シートのカバーの色もオーダーメイドで生産しているため手作業で縫製していた。説明を受けている際にアベンタドールのシートの生地の手触りを味わうことができ、ランボル



写真 11



写真 12



写真 13

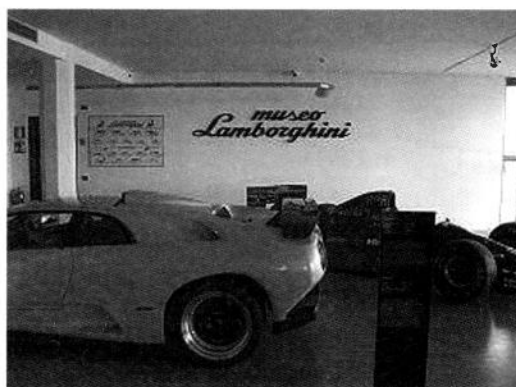


写真 14

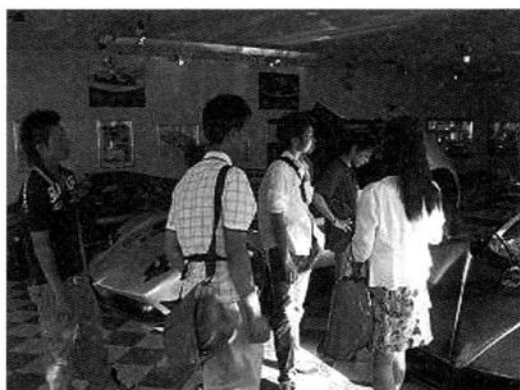


写真 15



写真 16

ギーニ工場見学の記念となった。

その後、パガーニ・ゾンダを製造するパガーニ・アウトモビリ (Pagani Automobili) があるモデナ (Modena) に移動し、小さな博物館と工場内を見学した。(写真15, 16) パガーニ社も同様に新車『ウアイラ』を製造中で、ゾンダに対して大幅な軽量化を図り重量を1350kgに抑えたスーパーカーである。日本ではなかなか目の当たりにできない3社のスーパーカーを1日で見学、比較することができ学生たちはただただ目を丸くして大いに見聞を広げることができた。

9月2日：第8日目

この日は朝からフェラーリ博物館の見学を行った。往年の数々の名車の展示や、歴代のF1グランプリでの輝かしいフェラーリの歴史を一同に集めた近代的な博物館に学生たちは時間を忘れ

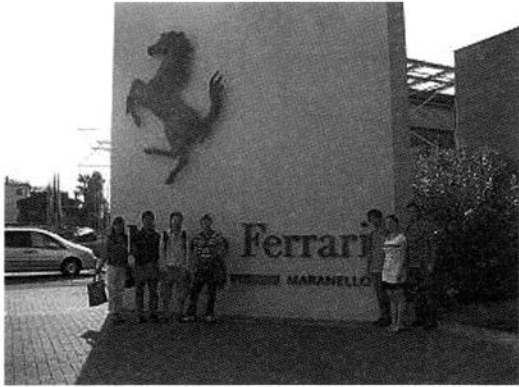


写真 17



写真 18



写真 19



写真 20

で熱心に写真を撮影していた。見学後は博物館に併設されているフェラーリショップで、ここでしか手に入らないフェラーリグッズを家族や友人へのお土産としてとても楽しそうに選んでいた。博物館内での様子を写真17, 18に示す。

その後トニーオート同様に毎年イタリア短期留学でお世話になっているザナシーを訪問した(写真19, 20)。ザナシーは広い敷地への移転をし、近代的な建物と設備になっていた。ここでは車体整備だけではなく、ドレスアップやフェラーリと共同で車体デザインなども担当しており、塗装ブースに置いてあった貴重な試作品のボディを内密に見せてもらうことができた。

その後イタリア国立フェラーリ工業専門学校を訪問した後、モデナに移動して列車に乗りミラノへ移動した。終着駅のミラノ中央駅は国際列車の発着する歴史ある巨大な駅で(写真21, 22)、宿泊先はこの駅から歩いてすぐの所にある交通至便な立地であった。ホテルにチェックイン後、街の中心部にある世界遺産であるドゥオーモ (Duomo) までホテルから歩いて30分程で行く事ができるということだったので、夕食までの間の時間を利用して歩いて散策をすることとなった。ファッションで有名なミラノの街は洗練されており、ブランドショップが軒を連ねるモンテ・ナ



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24



写真 25

ポレオーネ通りなど街の雰囲気十分に堪能しながら、ドゥオーモに到着した。(写真23) 時間が遅く中に入ることはできなかったが、ローマやヴェネチアとは違った様式の巨大な教会であるドゥオーモは息を呑むような美しさであった。その後傍にある巨大なアーケードであるガレリア (Galleria) を散策し (写真24)、ドゥオーモの見えるレストランで食事をして最後にパフェで乾杯をしてイタリア最後の夜を満喫した。(写真25)

9月3日：第9日目

帰路に着くためミラノのホテルを出発し、ミラノ・マルペンサ空港 (Aeroporto internazionale

Milano-Malpensa) より経由地の香港空港に向かった。

9月4日：第10日目

香港空港に早朝到着し、台湾・桃園空港経由セントレア行き便に乗り継いだ。

日本は前日より台風12号が接近・上陸して紀伊半島を中心に大きな被害を受けており、この日も名古屋は大雨であった。日本時間のこの日の午前中を中心に飛行機の欠航や遅れ、また空港と市内を結ぶ鉄道の運休などが相次いでおり、帰国ができるかどうか危ぶまれたが、桃園空港での機体トラブルによる1時間半の遅れ以外はトラブルもなく帰国する事ができ、到着する頃には雨も上がり鉄道も運行再開されており、各自が無事に家路につく事ができた。

5. 考 察

今回の研修旅行では、昨年10月に海外研修・留学委員会の新委員で募集定員及び研修内容・場所の決定と研修期間の検討を行った。研修旅行は参加募集と費用決定についての難航が予測された。人数が集まらないため旅程調整にも時間を要した。参加予定者が想定人数に達することが難しく催行を考える必要性も出てきた。しかし、2国訪問をイタリアのみの1国訪問にし、移動は全て鉄道での移動にすることでなんとか実現可能となった（厳密に言えばヴァチカン市国の訪問があるため2国の訪問）。今回も研修旅行のガイドブックを作成から印刷まで海外研修・留学委員会で対応した。

6. ま と め

毎年フェラーリ工場の見学については不確定要素であったが、今年は見学することが可能であった。またランボルギーニ工場の見学も可能であり、充実したものとなった。

以下の点が成果であった

- ・一般旅行とは異なり、自動車関連の研修内容を充実できた。
- ・欧州の鉄道や地下鉄に乗車することができた。
- ・研修旅行中は寒い欧州であったが天候上の問題もなく、無事故で実施できた。
- ・引率者を含めて参加者全員が、いろいろな場面で協力しながらひとつの時を一緒に過ごせたことが最大の成果であった。
- ・ホテルのチェックアウトや市内観光でのショッピングなどで英語を使つての会話に挑戦した。

最後に、海外研修旅行を実施するにあたり協力を頂いた本学の教職員の方々、研修先の調整と引率をして頂いた学園本部の蜂須賀氏には、深く感謝の意を表します。

この研修旅行に参加した学生の名前を記す。

自動車工学科：1年 伊藤大貴 小嶋悠嗣 原木聡 水谷吉裕

自動車工学科：2年 ナディア・ナジミディン

以上5名

7. 参 考 文 献

- 1) 林文明, 藤田英樹, 鈴木泰成, 木下茂, 松浦克至: 中日本自動車短期大学論叢 第42号 (2011), 2011年度海外研修旅行の報告